【中学部　国語①　実践の概要】

〇中学部３年　国語　（単一障がい学級）
〇本時の題目：「電話を使って、行きたいお店を予約しよう」
〇本時の目標：
　伝える内容を自分がわかるように、短くメモにまとめる。　（知・技）
　お店を予約するときに、伝えたい項目を考え、ワークシートに記入する。　（思・判・表）

授業者のねらいとしては「生徒が友だちとお店で食事をしたいという希望を持っているので、電話を用いて、お店を予約する方法を学び、将来の生活にいかしてほしい」というものであった。授業では、ワークシートを用いて、電話で予約をするときに、伝える内容は何かを考え、記入した。その後、教師が店員役になり、実際に電話をかけて、予約をする練習をした。

【良かった点・工夫されていた点】

〇対象生徒の将来お店で友だちと食事をしたいという希望を重視し、対象生徒のためにという気持ちを強く感じることができた。
〇事前に電話で予約ができるお店を調べ、実際にお店に訪問するなど、熱心に授業準備をしていた。
〇生徒たちが思考できるように、ワークシートを準備するなどの工夫がなされていた。

【課題】

〇たくさん準備をしていたが、内容が多すぎて、まとめや振り返りの時間を設定することができず、時間内に用意した活動を終了することができていなかった。
〇めあてを最初に提示していたが、なぜそれがめあてになるのかということが曖昧だった。
〇授業後、対象生徒は今日の学びを生活の中で実践したいと言っていたが、他の生徒は電話で予約はしないと思うと発言していた。このような違いこそが、生徒同士が対話をしながら思考する場面となるが、そこに教師が授業内に気づくことができなかった。
〇ワークシートに注意点等を書き込むことはできていたが、生徒同士で対話をしながら思考する場面があまり見られなかった。
〇ワークシートに沿って話せば、問題なく予約をすることができることを体験できたのはよかったが、やり方を覚える学習になっていた。

【助言】

〇たくさん準備をしていたが、内容が多いと、何を学ばせたかったのか曖昧になる。内容を焦点化し、生徒が振り返りやすい展開にすることで、生徒自身がなにを学んだかを明確にするとよい。それが次への学習につながっていく。
〇やや唐突にめあてを提示していた。生徒と対話しながら、『解決すべきこと＝めあて』と生徒が自覚できるように提示すると、子どもたちがこの学びの必要感を感じやすくなる。
〇授業後の対話で、この授業に必要感を感じながら取り組んだ生徒と、そうでない生徒がいたということがわかった。このような対話を授業内で実施できると、その生徒にとって主体的に取り組みたくなる課題であるかどうかという視点を明確化することができる。
〇生徒同士で、「私は～と思う」や「いや、～の方がいいと思う」といった対話的な場面がある方が、思考を言語化でき、教師は生徒の思考を確認することができる。もう少し対話的な場面を設定する必要がある。
〇教師が２名いたので、例えば、予約をする役（お客）と、予約を受ける役（店員）に教師が分かれ、間違った予約の仕方を演じることで、何がいけなかったのかを生徒に考えさせることができる。予約の仕方の授業になっていたが、国語の授業として、どのように話したら相手に伝わるのかという視点で、授業を展開する方が、生徒が思考しやすくなったと考えられる。